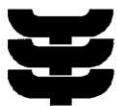


館林市埋蔵文化財発掘調査報告書 第60集

## 館林市内遺跡発掘調査報告書 — 令和3年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査 —

北小袋遺跡	(令3地点)
館林城跡・城下町	(令3A地点)
子ノ神1遺跡	(令3地点)
館林城跡・城下町、加法師遺跡	(令3地点)
館林城跡・城下町	(令3B地点)
北近藤第一地点遺跡	(令3地点)

令和3年度(2022)



文化財愛護シンボルマーク

<http://www.city.tatebayashi.gunma.jp/bunka/>

# 館林市内遺跡発掘調査報告書

## — 令和3年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査 —

北小袋遺跡	(令3地点)
館林城跡・城下町	(令3A地点)
子ノ神1遺跡	(令3地点)
館林城跡・城下町、加法師遺跡	(令3地点)
館林城跡・城下町	(令3B地点)
北近藤第一地点遺跡	(令3地点)

2022  
館林市教育委員会



## 例 言

- 本書は、令和3年度に国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金を受けて実施した館林市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 本書において報告する遺跡名は、「遺跡台帳」に基づき以下のとおりである。令和3年度の調査地点名は「令3地点」とする。

北小袋遺跡 館林城跡・城下町 子ノ神1遺跡 加法師遺跡 北近藤第一地点遺跡  
岡野・屋敷前・岡遺跡 妙円寺2遺跡
- 令和3年度の調査組織は次のとおりである。

調査主体者	館林市教育委員会
担当課	文化振興課(文化財係)
教育長	小野 定(～令和4年3月5日) 川島 健治(令和4年3月6日～)
教育次長	青木 伸行
文化振興課長	戸叶 俊文
文化財係長	阿部 弥生
主任	田沼 美樹
主任	宮田 圭祐(担当)
本事	橋本恵理佳
本事	小林 里德
本事補	塙原 未来
- 調査作業員・整理作業員(50音順敬称略)

油野真由美 篠崎 人美 杉田 和実 関口 芳友 津布工り子 寺嶋 美雪  
西谷 義信 原田 和沙 半田 博 前田 清美 谷津 陽子
- 出土遺物、調査記録および資料は、館林市教育委員会で保管している。
- 本書の編集・執筆は、宮田が中心となり行った。
- 遺物の実測・観察表およびその他の図版作成は、宮田・油野・津布工・寺嶋・原田・前田で行った。
- 遺物の撮影は原田が中心となり行った。
- 調査の実施および本書刊行にあたり、下記の方々のご協力をいただいた。ここに記して感謝申しあげける次第である。(順不同、敬称略)

地権者各位 群馬県地域創生部文化財保護課 館林土木事務所 館林市都市建設部都市計画課  
館林市政策企画部税務課 館林市農業委員会事務局

## 凡 例

- 本書における挿図の縮尺は、図中に記した。「出土遺物写真」の縮尺は1/3を基本とした。
- 遺跡位置図等は、令和3年度発行の館林市都市計画基本図を用いた。
- 土層断面および出土遺物の注記に用いた色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修 財團法人日本色彩研究所色票監修「新版土色帖」に従った。一部、調査担当者の目視による判断も含まれる。

## 参 考 文 献

- 黒澤照弘 2009 「館林市における土師器皿の変遷—15~17世紀を中心にして—」『館林市史研究おはらき』第3号  
館林市教育委員会 『館林市埋蔵文化財発掘調査報告書』第1集~第59集  
館林市史編さん委員会 2010 『館林市史 特別編第4巻 館林城と中近世の遺跡』  
館林市史編さん委員会 2011 『館林市史 資料編1 館林の遺跡と古代史』  
館林市史編さん委員会 2015 『館林市史 通史編1 館林の原始古代・中世』

# 目 次

例 言
凡 例
参考文献
目 次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次

第1章 館林市の環境	
1. 地理的環境 .....	1
2. 歴史的環境 .....	1
第2章 確認調査の概要	
1. 北小袋遺跡(令3地点) .....	3
2. 館林城跡・城下町(令3 A地点) .....	5
3. 子ノ神1遺跡(令3地点) .....	8
4. 館林城跡・城下町、加法師遺跡(令3地点) .....	10
5. 館林城跡・城下町(令3 B地点) .....	13
6. 北近藤第一地点遺跡(令3地点) .....	16
【岡野・屋敷前・岡遺跡】 .....	19
【妙円寺2遺跡】 .....	19
遺物一覧	
写真図版	
報告書抄録	

## 挿 図 目 次

第1図 館林市の位置 .....	1	第17図 調査図と土層断面 .....	11
第2図 館林市の地形概念図 .....	2	第18図 出土遺物 .....	12
第3図 令和3年度調査遺跡位置 .....	2	第19図 館林城跡・城下町(令3 B地点)の範囲と調査地 .....	13
第4図 北小袋遺跡(令3地点)の範囲と調査地 .....	3	第20図 調査図と土層断面 .....	14
第5図 基本層序 .....	4	第21図 出土遺物 .....	15
第6図 調査図 .....	4	第22図 北近藤第一地点遺跡(令3地点)の範囲と調査地 .....	16
第7図 出土遺物 .....	4	第23図 調査図と土層断面 .....	17
第8図 館林城跡・城下町(令3 A地点)の範囲と調査地 .....	5	第24図 住居址拡大 .....	17
第9図 基本層序 .....	6	第25図 出土遺物 .....	18
第10図 調査図と土層断面 .....	6	第26図 岡野・屋敷前・岡遺跡の範囲と対象地 .....	19
第11図 出土遺物 .....	7	第27図 妙円寺2遺跡の範囲と対象地 .....	19
第12図 子ノ神1遺跡(令3地点)の範囲と調査地 .....	8		
第13図 基本層序 .....	9		
第14図 調査図 .....	9		
第15図 出土遺物 .....	9		
第16図 館林城跡・城下町、加法師遺跡(令3地点)の範囲と調査地 .....	10		
		第1表 遺物一覧 .....	20

## 写真図版目次

北小袋遺跡(令3地点)

- PL 1-1 調査区全景
- PL 1-2 作業風景
- PL 1-3 トレンチ1深掘部土層断面(東面)
- PL 1-4 出土遺物
- PL 1-5 トレンチ1精査後(南から)
- PL 1-6 土木重機による埋め戻し
- PL 1-7 調査完了

PL 5-3 トレンチ3精査前(北から)

- PL 5-4 トレンチ1精査後(南から)
- PL 5-5 トレンチ1北端深掘部土層断面(東面)
- PL 5-6 トレンチ1深掘部土層断面(東面)
- PL 5-7 調査完了

館林城跡・城下町(令3A地点)

- PL 2-1 調査区全景
- PL 2-2 土木重機による掘削
- PL 2-3 トレンチ1精査前(北から)
- PL 2-4 トレンチ1精査後(北から)
- PL 2-5 トレンチ2精査後(北から)
- PL 2-6 トレンチ2溝1土層断面(東面)
- PL 2-7 調査完了

北近藤第一地点遺跡(令3地点)

- PL 6-1 調査区全景
- PL 6-2 土木重機による掘削
- PL 6-3 トレンチ1精査前(北から)
- PL 6-4 トレンチ2精査前(北から)
- PL 6-5 トレンチ1精査後(北から)
- PL 6-6 トレンチ1住居1遺物出土状況
- PL 6-7 トレンチ1住居1精査後
- PL 7-1 トレンチ2住居2遺物出土状況
- PL 7-2 作業風景
- PL 7-3 トレンチ2深掘部土層断面(北面)
- PL 7-4 トレンチ2住居址精査前
- PL 7-5 トレンチ2住居3精査後
- PL 7-6 トレンチ2住居4精査後
- PL 7-7 トレンチ2住居4炭化物分布状況
- PL 7-8 調査完了

子ノ神1遺跡(令3地点)

- PL 3-1 調査区全景
- PL 3-2 土木重機による掘削
- PL 3-3 トレンチ2溝1精査前
- PL 3-4 トレンチ2溝1精査後
- PL 3-5 トレンチ1精査後(西から)
- PL 3-6 土木重機による埋め戻し
- PL 3-7 調査完了

岡野・屋敷前・岡遺跡 立会

- PL 8-1 調査区全景
- PL 8-2 土木重機による掘削
- PL 8-3 砂質シルト堆積状況(南面)
- PL 8-4 ローム層・砂質シルト堆積状況

館林城跡・城下町、加法師遺跡(令3地点)

- PL 4-1 調査区全景
- PL 4-2 土木重機による掘削
- PL 4-3 トレンチ1精査後(東から)
- PL 4-4 トレンチ2精査後(東から)
- PL 4-5 トレンチ3精査後(西から)
- PL 4-6 トレンチ3深掘部土層断面(南面)
- PL 4-7 調査完了

妙円寺2遺跡 立会

- PL 8-5 土木重機による掘削
- PL 8-6 溝の確認状況
- PL 8-7 溝の堆積状況
- PL 8-8 溝の位置

出土遺物写真

館林城跡・城下町(令3B地点)

- PL 5-1 調査区全景
- PL 5-2 土木重機による掘削



# 第1章 館林市の環境

## 1. 地理的環境

館林市は、群馬県の南東部、関東地方のほぼ中央部に位置する人口約7.5万人の都市である。市域は東西約15.5km、南北約8.0kmと東西に長く、総面積は約60km<sup>2</sup>である。北は渡良瀬川を隔てて栃木県に、東は邑楽郡板倉町に、南は谷田川を隔てて邑楽郡明和町に接する。明和町の南には利根川が東流し、群馬県と埼玉県の県境となっている。県庁所在地の前橋市までは約50km、東京(台東区浅草)へも約65kmの距離にあり、東京圏との結びつきも強い。

群馬県南東部は、「邑楽・館林」地域と呼ばれ、標高15m(大島町東部)から33m程度(高根町)の平坦な低地である。本市の地形を概観すると、「洪積台地」と「沖積低地」に分けることができる。市街地が立地する「洪積台地」が東西に延び、その周辺に「沖積低地」が広がる。

この洪積台地は「邑楽・館林台地」と呼ばれており、太田市高林から本市中央部を東西に延び、隣接する板倉町まで続いている。また、大泉町古海から本市高根町にいたる台地の北側に沿って、日本最古級(約6~7万年前)の砂丘の一つである埋積河畔砂丘(館林古砂丘)が走っており、本市最高標高点(33.2m)はこの上にあった。

「沖積低地」は、おもに利根川や渡良瀬川によって形成された。台地北側の低地帯には、旧河道や微高地、自然堤防が目立ち、一方、台地南側の低地帯では、茂林寺沼など大小の沼や湿地帯が形成されている。こうした台地や低地などからなる本市の地形は、北西から南東へ向かって緩く傾斜する傾向がみられ、台地面と低地面の比高差も北部で大きく南部では小さくなっている。「邑楽・館林台地」と呼ばれる洪積台地は樹枝状に開析され、沖積低地に延びる多くの谷地を形成している。そのなかでも市内最大の谷は、本市中央部を東流する鶴生田川および城沼にかけての谷で、台地を南北に二分している。こうした洪積台地の谷には茂林寺沼・蛇沼・近藤沼などの池沼を伴うものが多く、本市の特徴の一つとなっている。

## 2. 歴史的環境

館林市内に所在する遺跡は148箇所である。昭和63年刊行の『館林市の遺跡』(市内遺跡詳細分布調査報告書)には、そのうちの144箇所について詳細が報告されている。

分布調査による採集遺物から大別した各時代の遺跡数は、次のとおりである(複合した時代の遺物散布地がみられるため、その中心になると考えられる時代でまとめた)。

旧石器時代は4遺跡(遺物は10遺跡で確認)、縄文時代の遺物が確認できるのは59遺跡、弥生時代は2遺跡(遺物は5遺跡で確認)。古墳時代~平安時代(土師器の出土した遺跡)は102遺跡(うち縄文時代の遺物も採取できる遺跡は46遺跡)、古墳は18遺跡(古墳総数25基)、中世以降の生産址1遺跡、中世~近世の城館跡は15遺跡、城館以外で中世・近世の遺物が多く出土するのは5遺跡である。

これらの遺跡の分布は地形的な特徴と大きく関わっており、館林市内に所在する遺跡の時代的変遷と地形的な関わりをおおまかに述べると、次のようになる。

### 《旧石器時代》

この時代の遺跡は、山神駒遺跡や水溜第一地点遺跡・同第二地点遺跡など、邑楽・館林台地の北西に沿って、鞍掛山脈と地元で呼ばれる埋積河畔砂丘上で多く分布している。また、大袋Ⅱ遺跡や間堀1遺跡など低地を望む舌状台地上の遺跡でも当該期と考えられる資料が確認されている。

### 《縄文時代》

この時代になると、遺跡数が増加し洪積台地上に遺跡が分布する。前期や中期の遺跡は、加法師遺跡や間堀1遺跡など、池沼や谷地を望む台地上の平坦面に集落を形成している。確認できる遺跡数は後期以降減少するが、洪水堆積層の下で確認できることが多く、より低地で痕跡が残される傾向がある。

### 《弥生時代》

弥生時代の遺構は確認されていないが、大袋Ⅰ遺跡や小林遺跡など微高地や台地の斜面等で、遺物などがわずかに確認されている。

### 《古墳時代》

前期の遺跡は少ない。道溝遺跡は洪積台地の斜面からテラス状の微高地に所在しており、この傾向は弥生時代の遺物散布に似ている。中期には遺跡の数が増えるとともに、その所在は台地の斜面から台地上の平坦面へと移行する。後期には遺跡数は増大し、北近藤第一地点遺跡や当郷遺跡など台地上の平坦部に所在する場合が多い。



第1図 館林市の位置

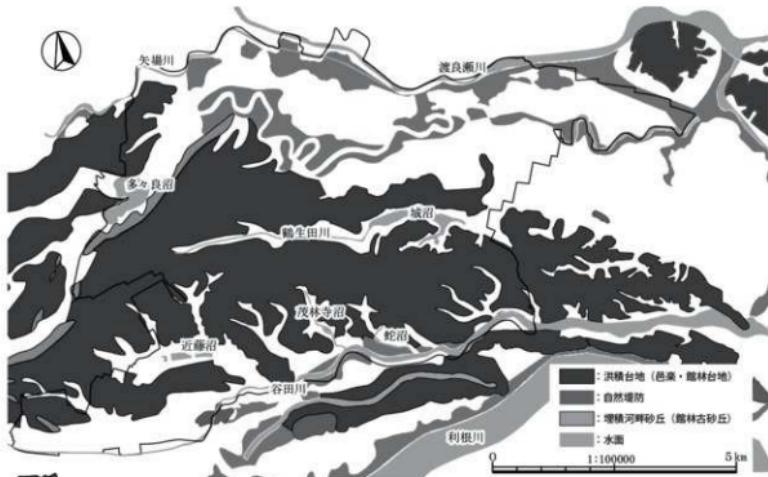
墳墓としての古墳は、推定地も含め33基が残存している(『館林市史 資料編1』参照)。古墳群が2箇所あり、一つは日向地区を中心とする邑楽・館林台地上、もう一つは高根地区を中心とする埋積河畔砂丘上にある。そのほかに単独のものも多いが、そのいずれも谷や谷地等を見おろす洪積台地上に所在している。

### 《奈良・平安時代》

この時代の遺跡の痕跡は多く残る。台地の端部に限定されず遺物の採取ができるところから、この時代以降は台地上に普遍的に集落等が営まれていたと考えられる。

### 《中世・近世》

この時代の城館跡については、伝承的な要素が多く実態は判然としない。しかし、谷や小河川などの自然地形を利用し中世末には館林城が、近世には館林城を中心として城下町が形成され、その町割りは今も残っている。



第2図 館林市の地形概念図



第3図 令和3年度調査遺跡位置

## 第2章 確認調査の概要

### 1. 北小袋遺跡(令3地点)

遺跡番号	0054
時代種別	旧石器・縄文(散布地)
調査地	館林市近藤町字北小袋171-63
調査原因	個人住宅
調査期間	令和3年6月14日～6月17日 〔内4日間〕
調査面積	約72.0m <sup>2</sup>

#### (1) 遺跡と周辺の環境

「北小袋遺跡」は館林市の南西、近藤沼の北に位置し、旧石器・縄文時代の遺物が出土する。近藤沼から延びる大きな谷が樹枝状の支谷に分かれる舌状台地上に位置し、周辺は畑や住宅地として利用されている。

本遺跡ではこれまでに8地点(A・B、平18・20・28A・28B・29、令元地点)で調査が行われている。特に昭和61年度の調査(B地点)では、旧石器時代の石器と縄文時代早期・前期の土器片が出土している。

今回届出のあった土地は遺跡の東端付近に位置し、平28A地点の隣接地であり、基準点の標高は22.451m(22.702mを移動)である。

#### (2) 調査の概要

工事予定区域の範囲に合わせ、南北方向に4本のトレーナーを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。使用した基準点は22.451mであり、機械高は23.500mとした。

#### (3) 基本層序

本遺跡の基本層序はI層～V層である(平28A地点参照)。

I層は表土(層厚約20cm)である。従前は畑として利用されていた(I層)。2層は褐色粘質砂層(10YR4/4、細粒砂)であり(層厚約30cm)、彫塑性はほとんどない。遺物包含層で、得に層上部で多く出土するが、縄文時代早期～近世遺物まで含むため、多くが原位置を留めていると考えられる。いわゆるローム漸移層(II層)。3A層は黄褐色粘土層(10YR4/6)で、粘質である(層厚約30cm)。3B層は褐色粘土層(10YR4/4)で、粘質で3A層より締まる(III層)。平28A地点と比べ、層厚・標高等の堆積状況は変わらない。

#### (4) 出土遺物

確認された遺物は、縄文土器を中心に30点程度である。剥片も1点出土した。

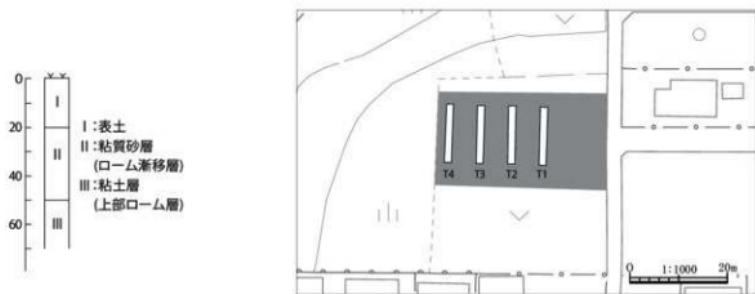
縄文土器は、黒浜式土器や勝坂式土器の破片が主である。縄文時代早期の貝殻沈線文系土器(第7図-1)も耕作土直下で出土している。遺跡の南西端の崖線部付近で昭和61年度に行われた調査(B地点)でも同時期の土器片が出土した。表土下30cm程度で出土する。

#### (5) まとめ

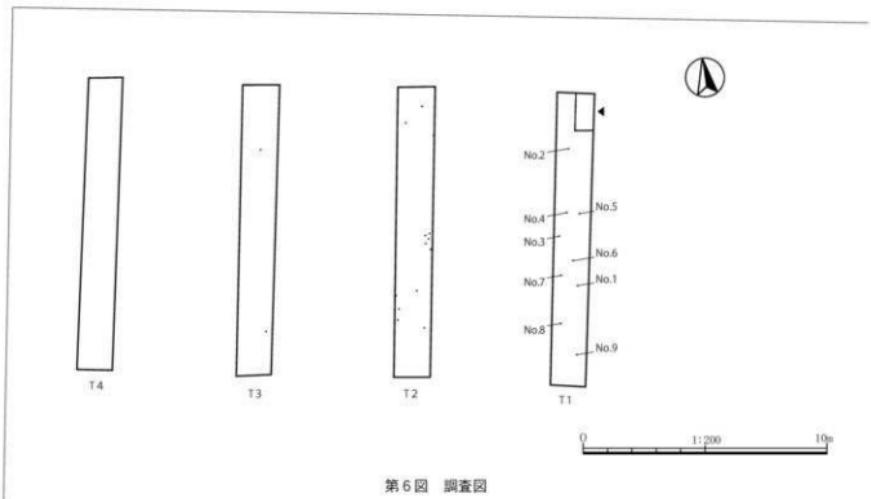
調査の結果、耕作など後世の土地の変更の影響を多く受けていることが確認された。本地点は平28A地点の隣接地にあたり、堆積状況も似た状況が確認できた。縄文時代以降の遺物の出土はあったが、原位置を留めている遺物は少ないと考えられる。遺構等も確認できなかったことから今回の建築物による埋蔵文化財への影響は少ないと判断した。



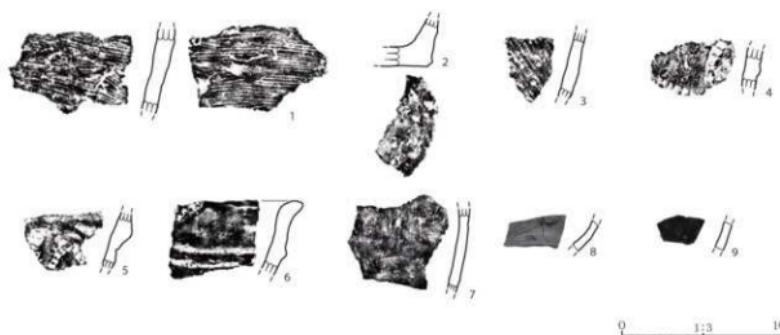
第4図 北小袋遺跡(令3地点)の範囲と調査地(1/5000)



第5図 基本層序(1/20)



第6図 調査図



第7図 出土遺物

## 2. 館林城跡・城下町(令3A地点)

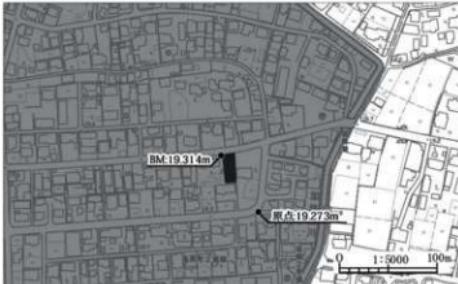
遺跡番号	0033
時代種別	縄文・古墳・中世・近世 (城館跡、散布地)
調査地	館林市尾曳町218-1
調査原因	その他建物(建売分譲)
調査期間	令和3年6月30日～7月13日 (内4日間)
調査面積	約54.0m <sup>2</sup>

### (1) 遺跡と周辺の環境

「館林城跡・城下町」は館林市のほぼ中央部に位置する近世の城館跡である。牙城部は城沼に突出する舌状台地上に位置し、周辺地形を利用し堀を配した続郭となる。榎原康政をはじめとする7家17代の居城およびその城下町として栄えたが、城および城下町が存した位置と現在の市街地が近似しているため、これまでの開発により城郭としての遺構の多くは失われている。城自体の遺構としては本丸・三の丸に一部土塁が残存しているのみである。

本遺跡ではこれまでに土橋門の復元や本丸、土塁に係る調査が17地点(昭57地点、平元・2・5・6・7・11・12・23・22・24A・24B・27・29地点、令元(2地点)・2地点)で行われている。特に平成27年度の土塁推定範囲内で行われた調査では、土塁の構築年代を類推するうえで参考となる資料がまとまって出土した。

今回届出のあった土地は遺跡の中央付近に位置し、基準点の標高は19.314m(19.273mを移動)である。



第8図 館林城跡・城下町(令3A地点)の範囲と調査地(1/5000)

### (2) 調査の概要

工事予定区域の範囲に合わせ、南北方向に2本のトレーナーを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。使用した基準点は19.314mであり、機械高は20.500mとした。

### (3) 基本層序

本遺跡の基本層序はI層～II層である。

I層は表土(層厚最大80cm)である。従前は畑や住宅として利用されていた。層下部を中心に遺物が出土する(I層)。2層は褐色粘土層(10YR4/4)であり、粘質である。いわゆるローム層(II層)。

### (4) 確認された遺構

溝1条(近世以降)、土坑1基(近世以降)、井戸1基(近代)が確認された。溝は縄文土器～近世陶磁器・瓦などを包含する。T1とT2を縦断しており、調査区外へ延びていると考えられるが、用途は不明である。井戸はコンクリートの基礎を伴うものである。

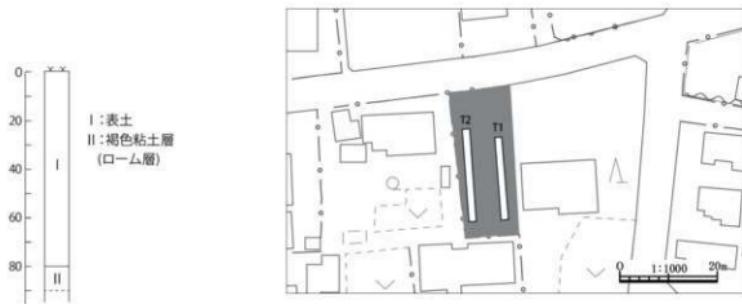
### (5) 出土遺物(第11図)

確認された遺物は、近世陶磁器を中心に瓦など100点程度である。陶磁器は近現代のものも多い。

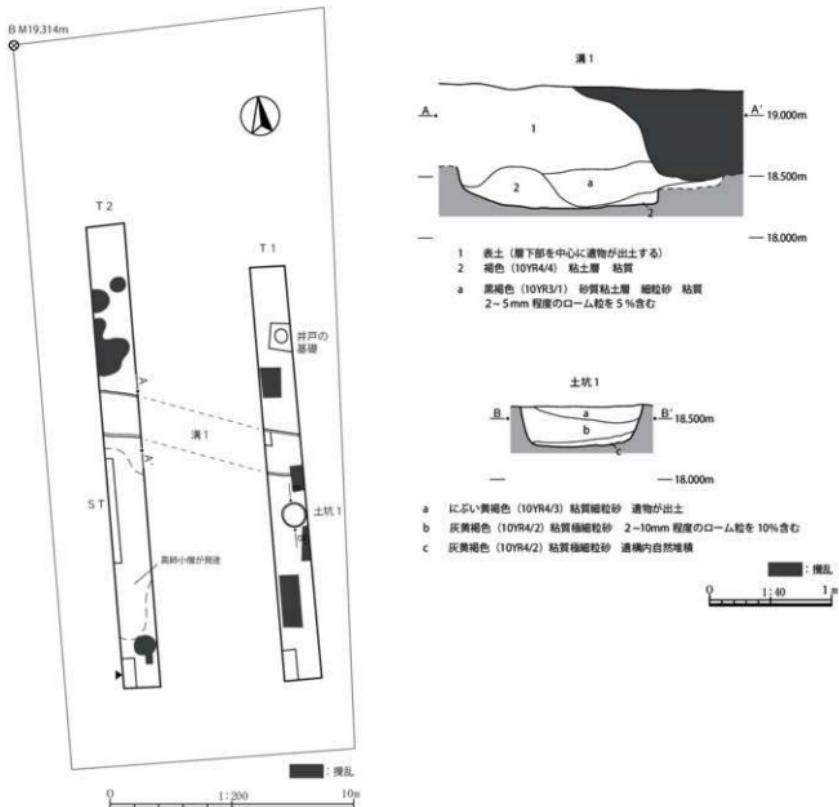
瓦は雲母粉の使われているものもある。令元地点でも19世紀後半に比定される瓦が出土しており、同時代のものと推定される。対象地は令元地点と同様に下級武士の長屋の区画であり、長屋の形態について考察する資料となる。18はカマドの構築材と考えられる。裏面にハケもみられ、上端部が外反する。

### (6)まとめ

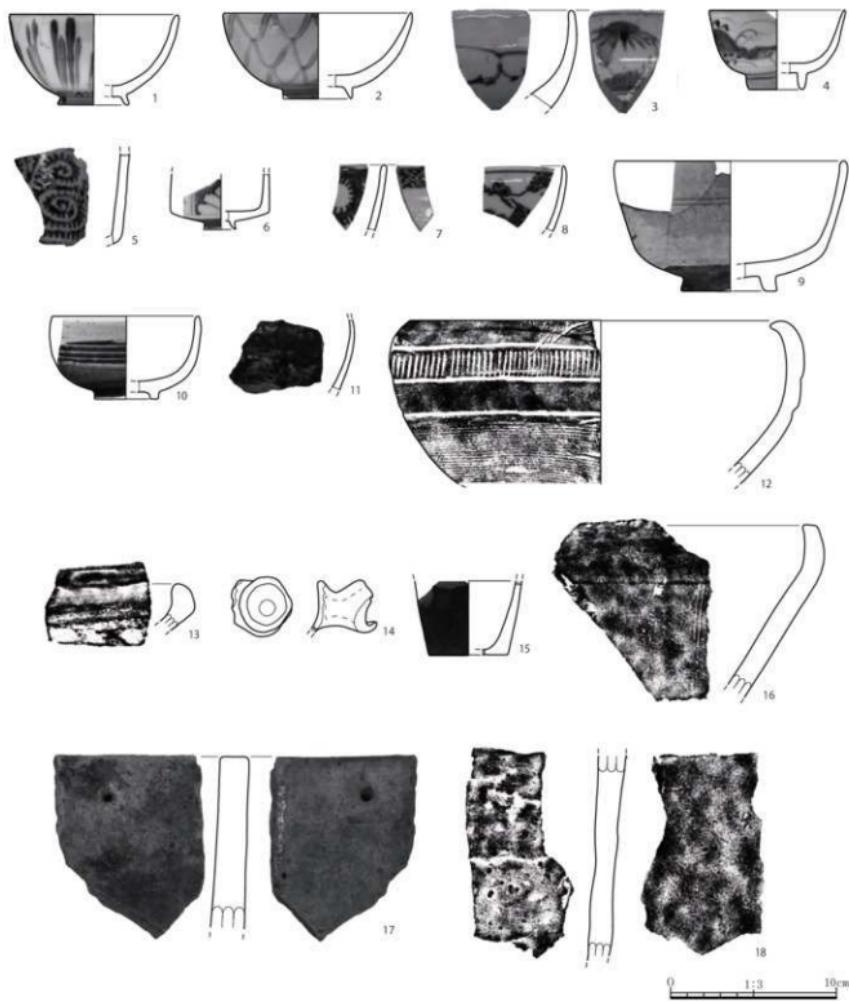
調査の結果、耕作など後世の土地の変更の影響を多く受けていることが確認された。本地点は令元地点の北側にあたり、藩士住宅関連の遺構の確認も期待されたが、表土から60cm以上は従前建物等の影響を受けていた。近世以降の遺物の出土がほとんどであるが、原位置を留めている遺物は少ないと考えられる。今回の建築物による埋蔵文化財への影響は少ないと判断した。



第9図 基本層序(1/20)



第10図 調査図と土層断面



第11図 出土遺物

### 3. 子ノ神1遺跡(令3地点)

遺跡番号	0124
時代種別	平安(散布地)
調査地	館林市赤生田町2297-1
調査原因	その他開発(駐車場)
調査期間	令和3年7月14日～7月24日 [内3日間]
調査面積	約77.3m <sup>2</sup>

#### (1) 遺跡と周辺の環境

周知の埋蔵文化財「子ノ神1遺跡」は館林市の中央からやや東部に位置する平安の散布地である。田川から北西に延びる細い谷に面する洪積台地上に位置し、店舗や住宅の開発が進んでいるものの、特に東部で農地の利用が主である。

同遺跡ではこれまでに3地点(平18・19・27地点)で調査が行われている。すべての地点で保存を有する遺構は確認されなかったが、土坑等が散見されており、周囲にも間堀1遺跡など大規模な集落址がある。

今回届出のあった土地は遺跡の東端付近に位置しており、基準点の標高は20.901m(21.377mを移動)である。

#### (2) 調査の概要

工事予定区域の範囲に合わせ、東西方向に3本のトレンチを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。使用した基準点は20.901mであり、機械高は21.670mとした。

#### (3) 基本層序

本遺跡の基本層序はⅠ層～Ⅲ層である。

Ⅰ層は表土(層厚約20cm)である。従前は畑として利用されていた(I層)。2層は黒褐色泥(7.5YR3/1、壤質)である。旧耕作土と想定されるが、溝1が掘り込んでいることから表土との時期差があるものと捉えた(II層)。3A層にはぶい黄褐色砂質粘土層(10YR4/3、細粒砂)で、粘質である(最大層厚約30cm)。表土等により削平されている。3B層にはぶい黄褐色シルト質粘土層(10YR5/4)で、上層より滑らかで粘性あり(III層)。

#### (4) 確認された遺構

溝2条が確認された。溝1はT1・T2で確認され、さらに南北方向に延びているものと想定される。約1m幅で、40cm程度掘り込んでいるが、耕作により削平されている。南北方向の溝が確認されるのは、平27地点などと同様の傾向である。時期・用途は不明瞭だが、上部で古墳時代の須恵器片の大甕片が出土しており、当該期の用・排水路などの可能性もある。

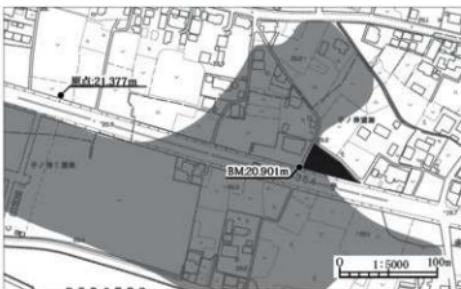
#### (5) 出土遺物

確認された遺物は、古墳時代の土師器・須恵器を中心に10点程度である。

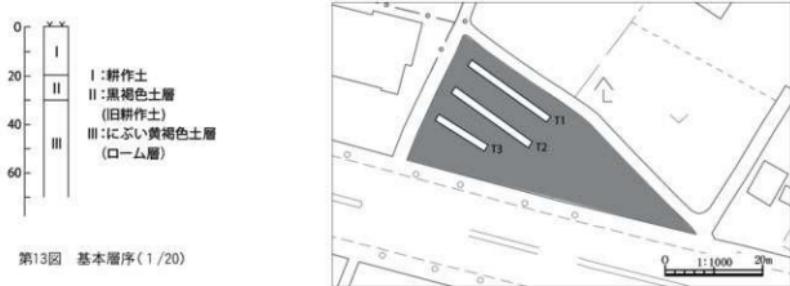
土師器、須恵器共に甕の破片である。タタキ調整は認められない。調査地北の子ノ神古墳との関連も想定される。

#### (6) まとめ

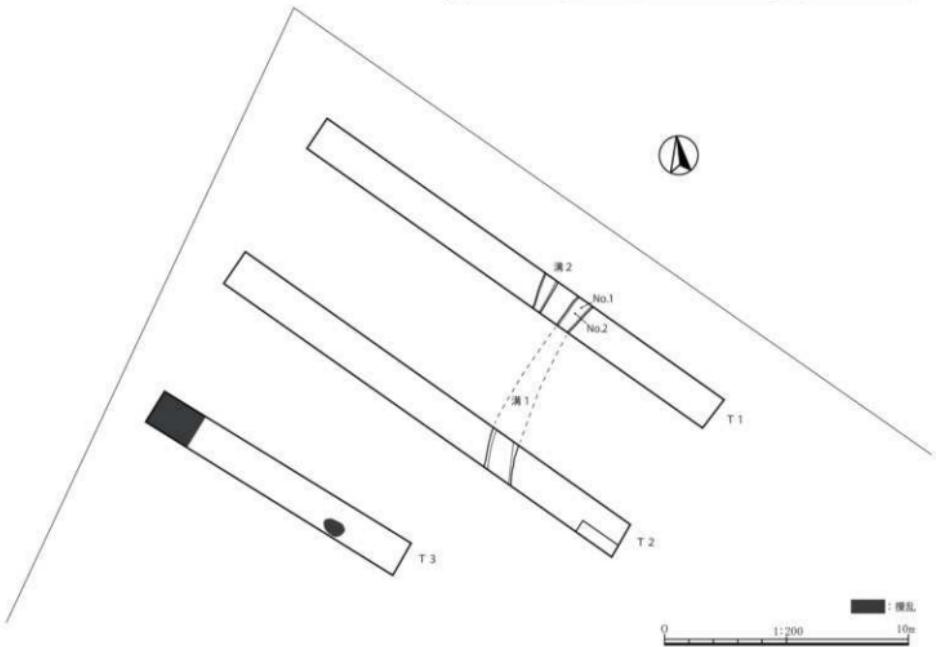
調査の結果、耕作など後世の土地の変更の影響を多く受けていることが確認された。本地点は平27地点の北東あたり、堆積状況も似た状況であった。縄文時代以降の遺物の出土はあったが、原位置を留めている遺物は少ないと考えられる。遺構等も確認できなかったことから今回の建築物による埋蔵文化財への影響は少ないと判断した。



第12図 子ノ神1遺跡(令3地点)の範囲と調査地(1/5000)



第13図 基本層序(1/20)



第14図 調査図



第15図 出土遺物

#### 4. 館林城跡・城下町、加法師遺跡(令3地点)

遺跡番号	0033, 0039
時代種別	縄文・古墳・中世・近世 (城館跡・散布地)
	縄文・古墳・奈良・平安・中世・ 近世(集落・城館跡)
調査地	館林市加法師町2864-1, 2866, 2867
調査原因	その他開発(宅地造成)
調査期間	令和3年7月29日～8月12日 (内8日間)
調査面積	約82.5m <sup>2</sup>

##### (1) 遺跡と周辺の環境

「館林城跡・城下町」は館林市のほぼ中央部に位置する近世の城館跡である。「加法師遺跡」は館林城の縄張りの北端に位置する縄文・古墳時代の住居址が多く確認された集落である。

今回届出のあった土地は館林城の縄張りの北端に位置し、「館林城跡・城下町」(令元地点)の隣接地である。基準点の標高は19.643m(18.900mを移動)である。

##### (2) 調査の概要

工事予定区域の範囲に合わせ、東西方向に3本のトレーナーを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。使用した基準点は19.643mであり、機械高は21.000mとした。

##### (3) 基本層序

本遺跡の基本層序はⅠ層～Ⅲ層である。

1 A層は表土(層厚最大50cm)である。従前は畑として利用されており、歛の痕跡が残る。1 B層は旧耕作土(層厚最大40cm)である。3cm程度のワラ等の遺存体あり。

2層は黒褐色砂質粘土層(7.5YR3/1)であり、粘質。高師小僧や遺物包含層で、T 2・T 3で広範囲に確認できた。2'層は黒褐色砂質粘土層(10YR3/1)であり、2層より弱粘性で、T 3のみで確認できた。

3層はにぶい黄褐色粘土層(10YR4/3)で、強粘質、いわゆるローム層である。3'層は暗褐色シルト質粘土層(10YR3/3)で、強粘質、3層より湿性である。

##### (4) 確認された遺構

住居址8軒(縄文3、古墳5)確認された。住居址は調査区北側で多く確認されている。2層を掘り込んでおり、その大部分は旧耕作土に削平されている。T 2とT 3でピットが確認されたが、旧耕作土と同様の土が堆積しており、間隔もまばらであることから詳細は不明である。また、所々、耕作や重機による擾乱が確認されている。

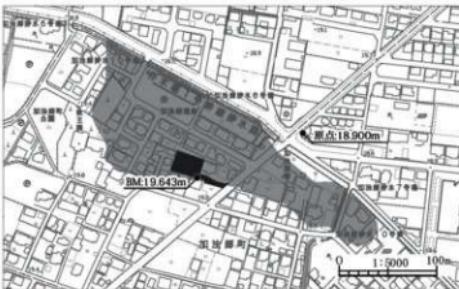
##### (5) 出土遺物

確認された遺物は、縄文土器片・土師器片を中心に100点程度である。

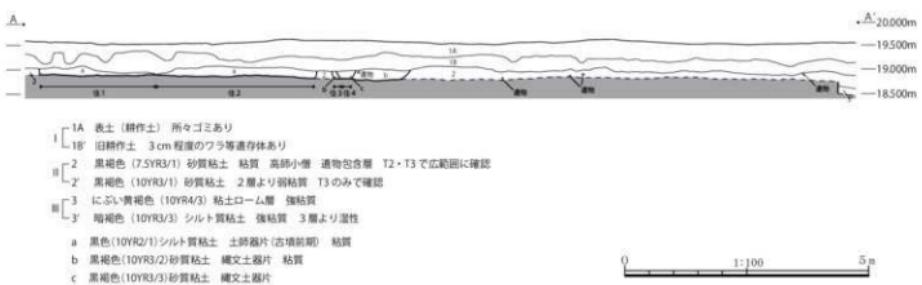
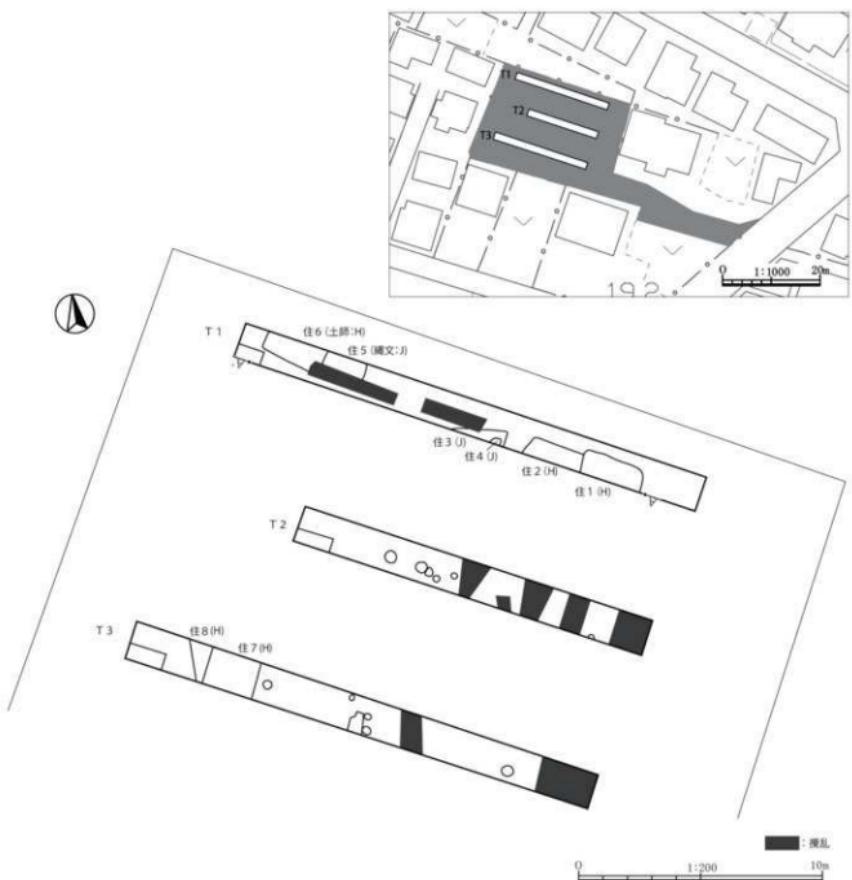
縄文土器は縄文時代前期～後期を中心に、土師器は古墳時代前期のものが多い。大部分が現地表面より70cm以上下から確認されており、一部で重機による擾乱も認められるため、近年の盛土や沈降の影響を受けている。

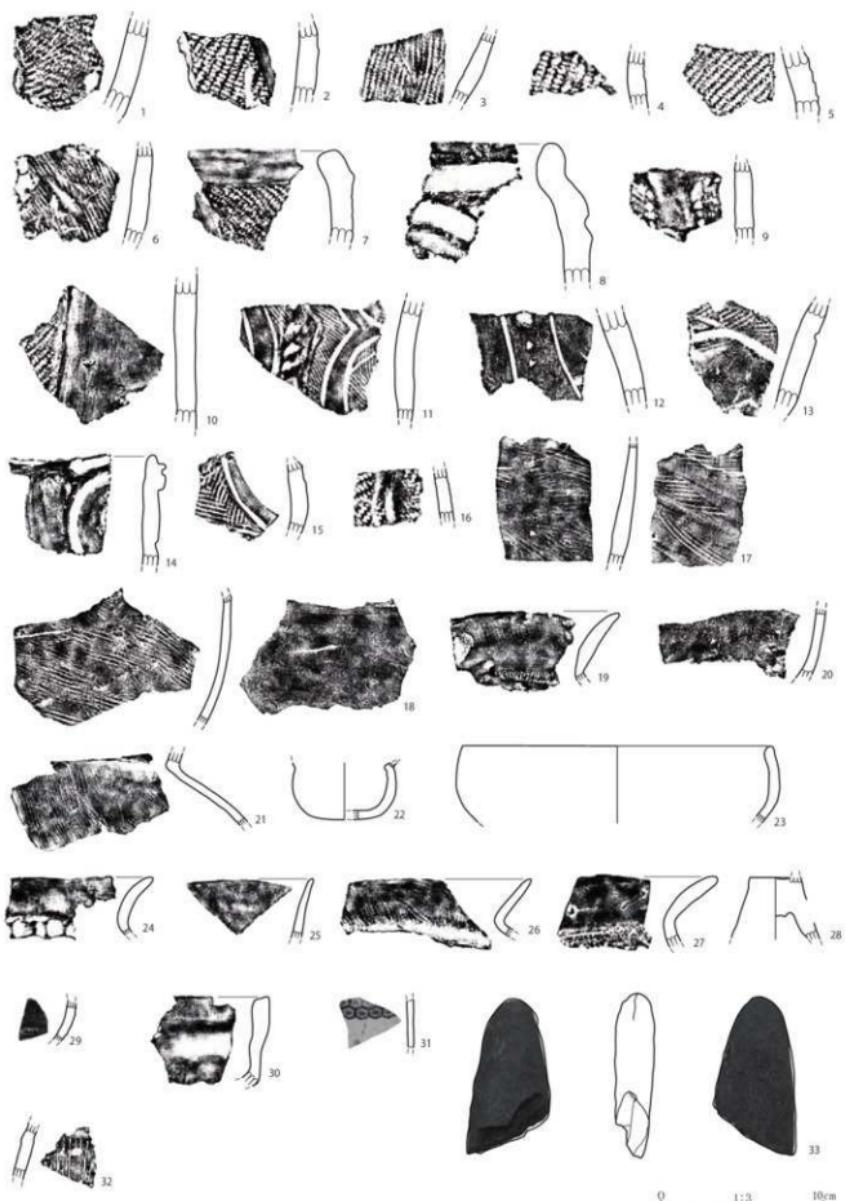
##### (6)まとめ

調査の結果、耕作など後世の土地の変更の影響を多く受けていることが確認された。本地点は令元地点の北側に位置しており、標高18.560mで水が染みだしてきていた(令元地点では18.600m)。耕作による影響があるため、今回の宅地造成による埋蔵文化財への影響は少ないと判断した。しかし、住居址が確認されたことから建物工事の際は発掘調査を必要とする。



第16図 館林城跡・城下町、加法師遺跡(令3地点)の範囲と調査地(1/5000)





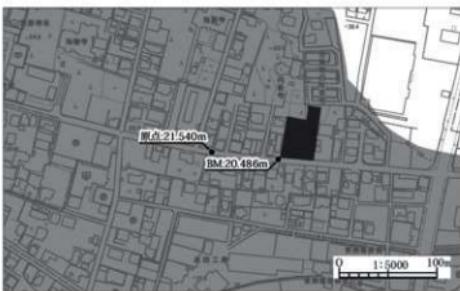
第18図 出土遺物

## 5. 館林城跡・城下町(令3B地点)

遺跡番号	0033
時代種別	縄文・古墳・中世・近世 (城館跡、散布地)
調査地	館林市朝日町1006-1, 1006-4, 1008-1, 1008-2, 1009, 1009-2, 1010, 1014-1
調査原因	その他建物(建売分譲)
調査期間	令和4年8月31日～9月16日 〔内6日間〕
調査面積	約102.5m <sup>2</sup>

### (1) 遺跡と周辺の環境

今回届出のあった土地は遺跡の中央付近に位置し、基準点の標高は20.486mを設定(21.540mを移動)である。令2地点の約80m東である。



第19図 館林城跡・城下町(令3B地点)の範囲と調査地(1/5000)

### (2) 調査の概要

工事予定区域の範囲に合わせ、南北方向に4本のトレーナーを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。使用した基準点は20.486mであり、機械高は23.000mとした。

### (3) 基本層序

本遺跡の基本層序はI層～IV層である。

I A層は表土(層厚最大50cm)である。従前は竹林が広がり住宅もあった。1 B層は腐植土層であり、 $\phi 5\text{ mm}$ の炭化粒を1%・ローム粒を3%程度含む。旧耕作土と想定される。2層は褐色粘土層(10YR4/4)であり、強粘質である。いわゆる上部ローム層。上層との境界に黒色の腐植土が2cm程度堆積する。3層は暗褐色シルト質粘土層(10YR3/3)粘質、暗色帶。トレーナー南端ではT1以外削平されている。4層は褐色シルト質粘土層(10YR4/4)強粘質、いわゆる中部ローム層。

### (4) 確認された遺構

溝3条(近世以降)、土坑6基(近世以降)、集石(礎石)1箇所が確認された。

溝は近世陶磁器・瓦などを包含する。全体像・用途は不明であるが、深さや形態などから溝とした。溝3は溝2に切られている。

土坑1は旧耕作土より80cm以上掘り込む。全体的に暗褐色砂質シルト(10YR3/2)で $\phi 2\text{ mm}$ のローム粒や4mm程度の纏糸・遺物片を1%含む。土坑2は黒褐色砂質シルト(10YR3/2)で根などがほとんど入らず、現地表面より1.2m程掘り込まれており、さらに1m以上深いものと想定される。土坑4から土師器の口縁部片が1点出土したが、近世遺物も出土しているため紛れ込みと考えられる。

集石はT3で確認され、最大で20cm程の石が大小15個程度確認されたが、他に確認できなかったためプラン等は不明である。

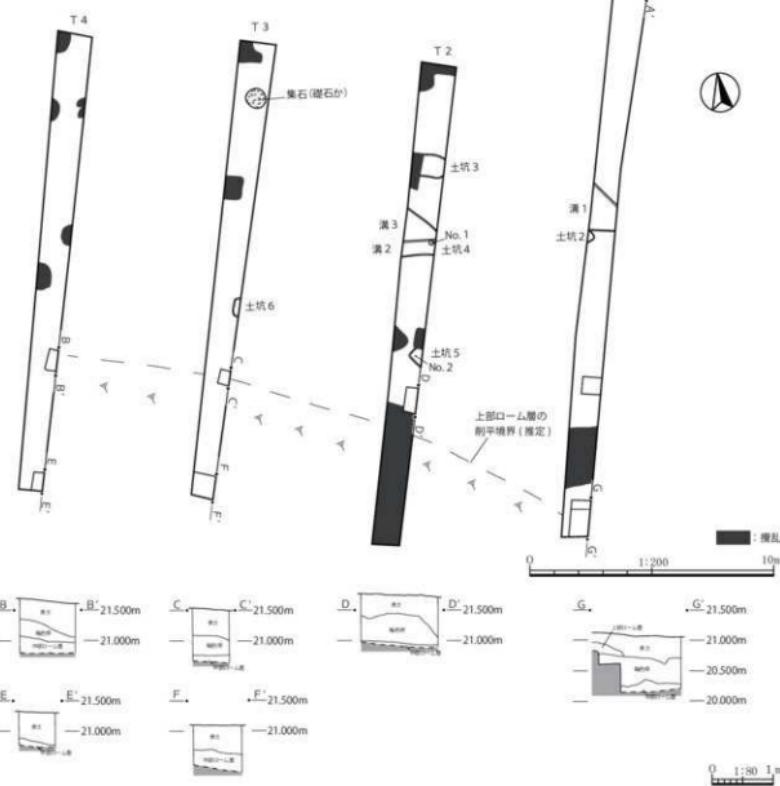
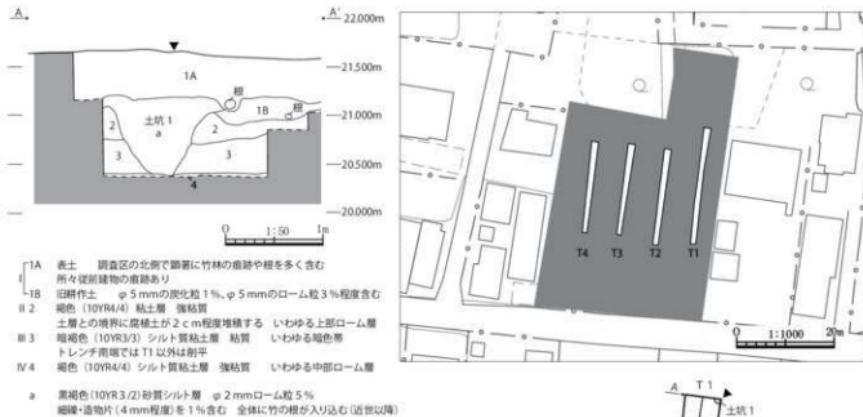
### (5) 出土遺物

確認された遺物は、近世陶磁器を中心に150点程度である。近世のカワラケや瓦も出土している。

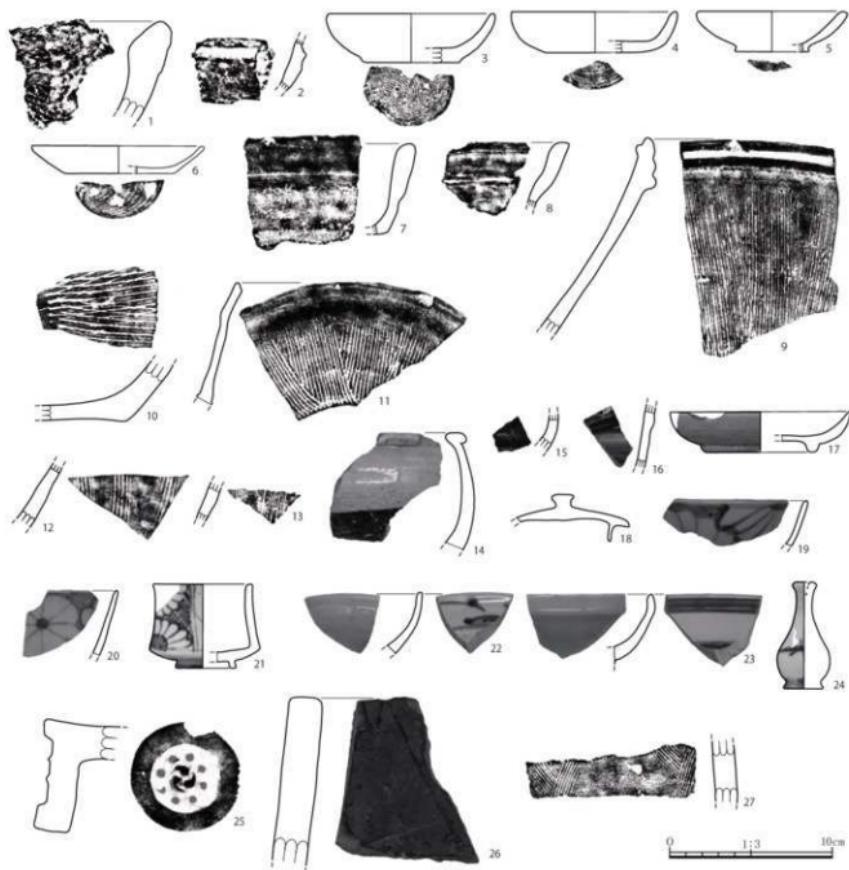
### (6)まとめ

調査の結果、耕作など後世の土地の変更の影響を多く受けていることが確認された。本地点は令2地点の東側にあたり、嘉永元年(1848)の「館林城下地図」によると「武家屋敷」の範囲であるため関連遺構の確認も期待されたが、後世の削平の影響を受けていた。

暗色帶から推定される原地形は、調査地内で東西方向に15mで30cm以上、南北方向に20mで20cm程度傾斜を確認した。特に東西方向の傾斜は顕著であり、現況の道路と同程度のものである。武家屋敷として使用されたのであれば、その当時からすでに土地の変更が行われていた可能性もある。近世以降の遺物の出土がほとんどであるが、原位置を留めている遺物は少ないと考えられる。今回の工事による埋蔵文化財への影響は少ないと判断した。



第20図 調査図と土層断面



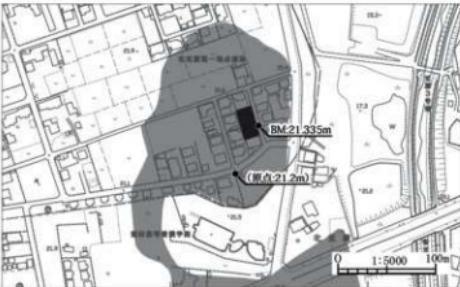
第21図 出土遺物

## 6. 北近藤第一地点遺跡(令3地点)

遺跡番号	0053
時代種別	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世(集落)
調査地	館林市近藤町830-11、830-12
調査原因	その他建物(建売分譲)
調査期間	令和4年1月11日～1月20日 (内6日間)
調査面積	約45m <sup>2</sup>

### (1) 遺跡と周辺の環境

周知の埋蔵文化財「北近藤第一地点遺跡」は館林市の南西端部に位置する古墳・平安時代の集落である。本遺跡ではこれまでに10地点(A・B・NK・C・E・F、平11・14・16・23地点)で発掘調査が行われ、古墳時代後期を中心とする多数の住居跡や遺物が確認されている。住居跡の数は古墳時代から平安時代にかけて百軒近くが見つかっている。



第22図 北近藤第一地点遺跡(令3地点)の範囲と調査地(1/5000)

今回届出のあった土地は遺跡の北西端付近に位置し、基準点の標高は21.355mを設定(21.2mを移動)である。

### (2) 調査の概要

工事予定区域の範囲に合わせ、南北方向に2本のトレーナーを設定し、土木重機により表土を排除した。その後、土層断面を観察しつつ人力で掘り下げ、遺構・遺物の有無、土中の状態を精査した。使用した基準点は21.355mであり、機械高は22.500mとした。

### (3) 基本層序

本遺跡の基本層序はⅠ層～Ⅳ層である。

1層は表土(層厚最大40cm)である。遺構上部も20cmは耕作されている。2層は褐色砂質粘土層(10YR4/4)であり、壤質である。いわゆる上部ローム層。耕作の影響があり厚いところでも20cm程度の堆積しかない。3層にはぶい黄褐色粘土層(10YR4/3)粘質、暗色帶。今回の調査区では60cm程度と比較的厚く堆積している。4層は褐色粘土層(10YR4/6)強粘質、いわゆる中部ローム層。

### (4) 確認された遺構

住居址4軒(古墳時代3、奈良・平安1)が確認された。

住1・住2・住4は古墳時代後期の住居址と想定される。掘削深度や堆積に類似性が認められる。住4はT2で確認され、カマドは伴わない。焼土が住居址の広範囲で確認され、長径20cm程度の炭化物も出土した。焼失住居の可能性もあるが、遺物量が少なく、焼土も広範囲に広がるもののはばらである。住2はT1南端で一部のみの確認であったが、完形の皿が出土した。住3は住4の一部と重複する。掘り込みは浅く、覆土の半分以上は耕作の影響を受けている。

### (5) 出土遺物(第25図)

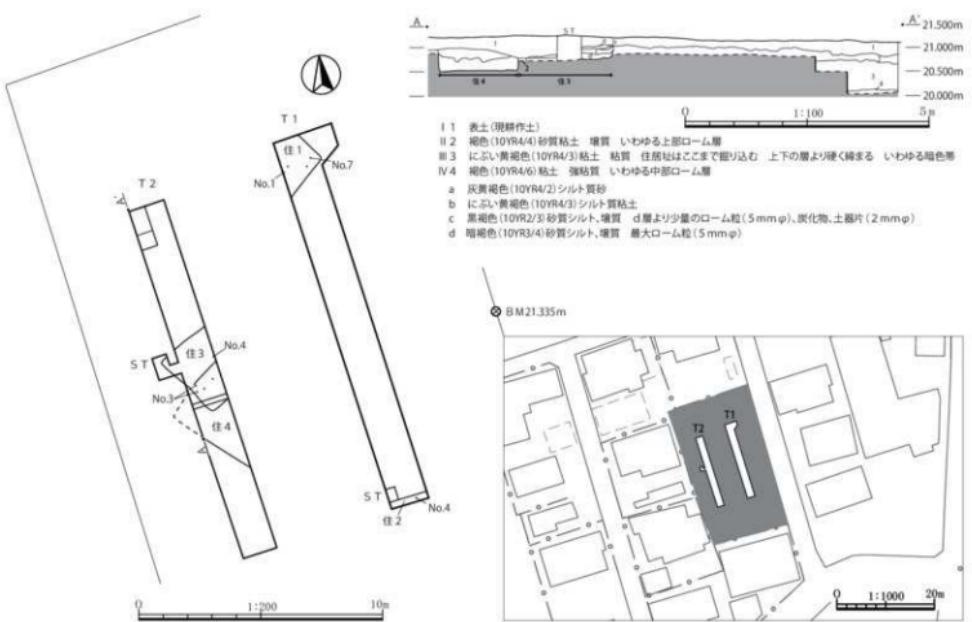
確認された遺物は、古墳時代の土師器を中心に100点程度である。

古墳時代後期の住居址(住1・住2・住4)に伴うものが大部分を占める。住2より古墳時代(6世紀中葉～7世紀後葉)の完形の皿が出土した。住3の覆土範囲からは、环身模倣环片が数点出土しており、有段部のなだらかな形状から8世紀以降のものと推定される。覆土は耕作の影響を受けており、原位置を留めているか定かではないが、住3と他住居址との形態的差異とも齟齬がない。

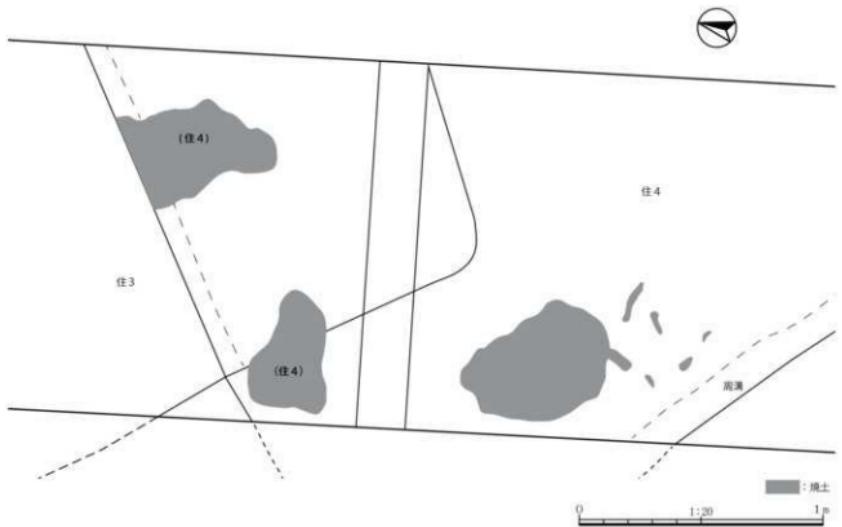
### (6)まとめ

調査の結果、耕作など後世の土地の変更の影響を多く受けていることが確認された。本地点は北近藤第一地点遺跡の北端付近であり、この場所でもこれだけの密度で住居址が確認されたことの意味は大きい。

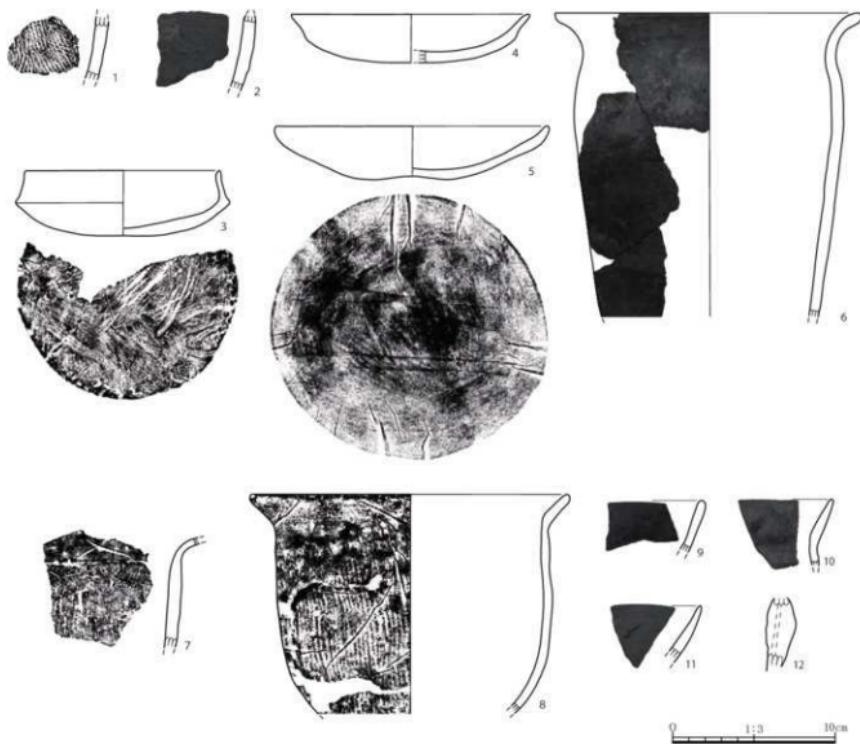
計画図と調査区図を重ね合わせた結果、建物配置と住居址確認位置が重なることから本調査が必要となる。「群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準」と実施計画を照合させた結果、最低でも40cmの盛土を行う必要がある。確実に保護層が確保できない合併浄化槽部分に関しては、遺構が残されている可能性は低いことから、今回の工事による埋蔵文化財への影響は少ないと判断した。



第23図 調査図と土層断面



第24図 住居址拡大



第25図 出土遺物

## 【岡野・屋敷前・岡遺跡】

遺跡番号	0053
時代種別	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世(集落)
調査地	館林市岡野町120-1、120-3、120-4、120-5
調査原因	その他開発(建売分譲住宅)
立会日	令和4年3月15日

### (1) 遺跡と周辺の環境

「岡野・屋敷前・岡遺跡」は館林市の北西に位置する縄文・古墳・奈良・平安時代の包蔵地である。邑楽・館林台地の北線上で高根の古砂丘にも隣接する。周辺は畑や住宅地として利用されている。

岡野・屋敷前・岡遺跡ではこれまでに7地点(昭56・58、平元・24・28A・28B・29)で調査が行われている。特に昭和56年度の調査では縄文時代後期の住居址が確認されている。



第26図 岡野・屋敷前・岡遺跡の範囲と対象地(1/5000)

### (2) 調査の概要

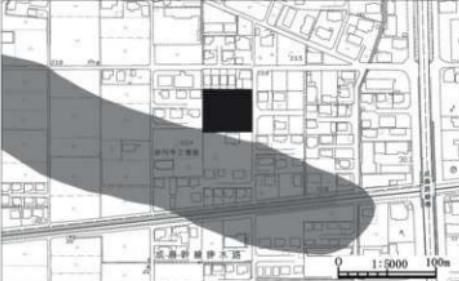
開発予定地に対して南北方向、東西方向にトレンチを設定した。堆積状況は造成工事の影響を受けていたが、南側ではローム質層の落ち込みを確認し、東側でも湿性の堆積を確認した。この状況は包蔵地の範囲と合致するものである。

## 【妙円寺2遺跡】

遺跡番号	0027
時代種別	平安(散布地)
調査地	館林市北成島町字妙円寺1794-1
調査原因	その他開発(建売分譲住宅)
立会日	令和4年3月24日

### (1) 遺跡と周辺の環境

妙円寺2遺跡は館林市の中心市街地から北西に位置する、平安時代の遺物の散布地である。鶴生田川へ続く開析谷に接する高台に位置し、周辺は住宅地と農地して利用されている。同遺跡では平成22年度に調査が実施され、染付や陶磁器を中心に寛永通宝も出土し、井戸や溝などが確認された。



第27図 妙円寺2遺跡の範囲と対象地(1/5000)

### (2) 調査の概要

開発予定地に対して東西方向にトレンチを設定した。堆積状況は良好で、水田耕作以外の痕跡をほとんど確認できなかった。南北方向に溝1条を確認した。

第1表 遺物一覧

回収番号	出土点	種類 器種	調整の特徴、残存率など	備考	回収番号	出土点	種類 器種	調整の特徴、残存率など	備考
7-1	T 2 No.16	深鉢	外縁は右方向、内面は左方向に貝殻による調節を施す。 繩文と多く含む。	縄文、貝殻沈繩文系	18-19	T 1	土師器 壺	口縁部片	古墳前期
7-2	T 1 No.8	深鉢	底部片、縄文 RL を左方向へ施す。	縄文、黒底式	18-20	T 1	土師器 壺	胴部片	古墳前期
7-3	T 2 No.10	深鉢	胸部片、縄文 RL を左方向へ施す。	縄文前期	18-21	T 1	土師器 壺	頸部～胴部片。ハケ	古墳前期
7-4	T 2 No.11	深鉢	胸部片、隠帶輪に筒状工具による押引文を施す。	縄文、勝坂式	18-22	T 1	土師器 壺	口縁部片	古墳前期
7-5	T 1 No.6	深鉢	胸部片、隠帶輪に筒状工具による押引文を施す。	縄文、勝坂式	18-23	T 2	土師器 壺	口縁部片	古墳前期
7-6	T 1 No.3	深鉢	口縁部片	縄文中期	18-24	T 2	土師器 壺	口縁部片	古墳前期
7-7	T 2 No.13	土師器 壺	胸部片	古墳	18-25	T 2	土師器 壺	口縁部片	古墳前期
7-8	T 2 No.18	陶磁器 壺	胸部片		18-26	T 3	土師器 壺	口縁部片	古墳前期
7-9	T 2 No.17	陶磁器 天日系壺	胸部片	瀬戸美濃	18-27	T 3	土師器 壺	口縁部片	古墳前期
11-1	T 1	染付 碗	残存率90%		18-28	T 3	土師器 壺	脚部の接合部	古墳前期
11-2	表塗	染付 碗	口縁部～底部片		18-29	T 2	陶磁器 碗	胸部片	近世
11-3	表塗	染付 碗	口縁部片		18-30	T 3	培培	口縁部片	近世
11-4	表塗	染付 碗	口縁部～底部片		18-31	T 3	陶磁器 碗	胸部片	近世
11-5	T 2	染付 碗	口縁部片		18-32	T 3	すり鉢	胸部片	近世
11-6	表塗	染付 碗	胸部～底部片		18-33	T 3	石斧		縄文
11-7	表塗	染付 碗	口縁部片		21-1	T 2 溝 2	深鉢	RL	縄文、中期
11-8	T 2	染付	口縁部片		21-2	T 2 土坑 4 No.1	土師器	口縁部片	古墳前期
11-9	T 2	陶磁器 壺	口縁部～底部片		21-3	T 2 土坑 5 No.2	カワラケ	口縁部～底部片	黒澤編年Ⅳ期
11-10	T 2	陶磁器 壺	口縁部～底部片、腰筋系縄		21-4	T 2 土坑 5	カワラケ	口縁部～底部片	黒澤編年Ⅳ期
11-11	T 2	陶磁器 壺	胸部片		21-5	T 2	カワラケ	口縁部～底部片	近世
11-12	表塗	火鉢	口縁部片		21-6	T 2	カワラケ	底部に穿孔あり	近代か？
11-13	T 1	陶器 皿	口縁部片		21-7	T 2 溝 2	培培	口縁部～底部片	中近世
11-14	T 1	陶器 把手	手鍋か		21-8	T 2 溝 2	内耳土器	口縁部片	中近世
11-15	T 2	陶器 皿	口縁部片		21-9	T 2	すり鉢	口縁部片	近世
11-16	T 1	十能瓦		近現代、大泉町産か	21-10	T 2	すり鉢	底部片	近世
11-17	T 1	瓦	穿孔	近現代	21-11	T 1	すり鉢	口縁部片	近世
11-18	T 2	土師器 構築材か	外外面ハケ	古墳時代	21-12	T 2 土坑 4	すり鉢	胸部片	近世
15-1	T 1 溝 1 No.1	須恵器 壺	胸部片	古墳	21-13	T 2	すり鉢	胸部片	近世
15-2	T 1 溝 1 No.2	須恵器 壺	胸部片	古墳	21-14	T 2 土坑 3 No.1	陶磁器 碗	口縁部片	
18-1	T 1	深鉢	胸部片、縄文 RL を右方向へ施す	縄文、黒底式	21-15	T 1 土坑 1	天目	陶磁器片	
18-2	T 1	深鉢	胸部片、地文に縄文 RL に沈継文施す	縄文、黒底式	21-16	T 2 溝 2	茶碗	陶磁器片	
18-3	T 1	深鉢	胸部片、地文に縄文 LR を施す	縄文、黒底式	21-17	T 1	陶磁器 皿	口縁部～底部片	
18-4	T 2	深鉢	胸部片、縄文 LR を施す	縄文前期	21-18	T 1 土坑 1	ふた	陶磁器	
18-5	T 2	深鉢	胸部片、縄文 RL を施す	縄文前期	21-19	T 1 土坑 1	染付	陶磁器 口縁部片	
18-6	T 3	深鉢	胸部片、縄文 LR を施す	縄文前期	21-20	T 2 溝 2	染付	陶磁器 口縁部片	
18-7	T 1 住 3	深鉢	口縁部片、隠隆帯区面し縄文 LR を左方向へ施す	縄文、加曾利E式	21-21	T 2 溝 2	陶磁器	口縁部～底部片	
18-8	T 2	深鉢	口縁部片	縄文、加曾利E式	21-22	T 2	染付・瓦	陶磁器 口縁部片	
18-9	T 3	深鉢	胸部片	縄文、加曾利E式	21-23	T 2	染付・瓦	陶磁器 口縁部片	
18-10	T 3	深鉢	口縁部片、微隆帯区面し縄文 RL を施す	縄文、加曾利E式	21-24	T 2	一輪鉢	陶磁器 完形	
18-11	T 1	深鉢	胸部片、地文に縄文 LR を施し磨消	縄文、称名寺式	21-25	T 2	軒瓦	丸瓦 巴紋	
18-12	T 1 住 4	深鉢	胸部片、刺突による列点	縄文、称名寺式	21-26	T 2 土坑 3	瓦		近現代
18-13	T 1	深鉢	胸部片、地文に縄文 LR を施し磨消	縄文、称名寺式	21-27	T 1 土坑 1	瓦	ハケ	近世か
18-14	T 1	深鉢	口縁部片、磨消	縄文、匂之内式	25-1	T 1 住 1 No.1	土師器 壺	夕タキ	古墳後期
18-15	T 2	深鉢	波状口縁部、地文に縄文 RL を施し磨消	縄文、加曾利B式	25-2	表塗	土師器 壺	接合部で欠損、刻みあり	古墳後期
18-16	T 3	深鉢	胸部片	縄文	25-3	T 2 住 4 No.9・10	土師器 壺	ナデ、ヘラケズリ	古墳後期
18-17	T 1 住 6	土師器 壺	内外面ハケによる調整と、丁寧に研削される	古墳初期	25-4	T 2 住 4 No.6	土師器 壺	ナデ、ヘラケズリ	古墳後期
18-18	T 1	土師器 壺	ハケ	古墳前期	25-5	T 1 住 2 No.5	土師器 壺	内面棒状工具によるナデ	古墳後期
					25-6	T 2 住 4	土師器 長胴壺	口縁部水平方向のナデ	古墳後期
					25-7	T 1 住 1 No.3	土師器 長胴壺	庖旋型	古墳後期
					25-8	T 2 住 4	土師器 小形壺	縱方向ハケ	古墳後期
					25-9	T 1 住 1	土師器 壺	口縁部片	平安
					25-10	T 1 住 1	土師器 壺	口縁部片	平安
					25-11	T 2 住 3	土師器 壺	口縁部片	平安
					25-12	T 1 住 1	土師	内縁部欠損	古墳

# 写真図版







1 調査区全景



2 作業風景



3 トレンチ1深掘部土層断面(東面)



4 出土遺物



5 トレンチ1精査後(南から)



6 土木重機による埋め戻し



7 調査完了



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 トレンチ1精査前(北から)



4 トレンチ1精査後(北から)



5 トレンチ2精査後(北から)



6 トレンチ2溝1土層断面(東面)



7 調査完了



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 トレンチ 2溝 1 精査前



4 トレンチ 2溝 1 精査後



5 トレンチ 1 精査後(西から)



6 土木重機による埋め戻し



7 調査完了



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 レンチ 1 精査後(東から)



4 レンチ 2 精査後(東から)



5 レンチ 3 精査後(西から)



6 レンチ 3 深掘部土層断面(南面)



7 調査完了



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 トレンチ3精査前(北から)



4 トレンチ1精査後(南から)



5 トレンチ1北端深掘部土層断面  
(東面)



6 トレンチ1深掘部土層断面(東面)



7 調査完了



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 トレンチ1 精査前(北から)



4 トレンチ2 精査前(北から)



5 トレンチ1 精査後(北から)



6 トレンチ1住居1遺物出土状況



7 トレンチ1住居1精査後



1 トレンチ 2 住居 2 遺物出土状況



2 作業風景



3 トレンチ 2 深掘部土層断面(北面)



4 トレンチ 2 住居址精査前



5 トレンチ 2 住居 3 精査後



6 トレンチ 2 住居 4 精査後



7 トレンチ 2 住居 4 炭化物分布状況



8 調査完了



1 調査区全景



2 土木重機による掘削



3 砂質シルト堆積状況(南面)



4 ローム層・砂質シルト堆積状況

### 妙円寺 2 遺跡 立会



5 土木重機による掘削



6 溝の確認状況



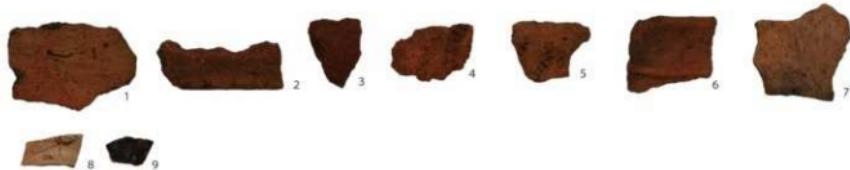
7 溝の堆積状況



8 溝の位置(メジャーの方向)

1. 北小袋遺跡（令3地点）

PL9



2. 館林城跡・城下町（令3 A地点）



3. 子ノ神1遺跡（令3地点）

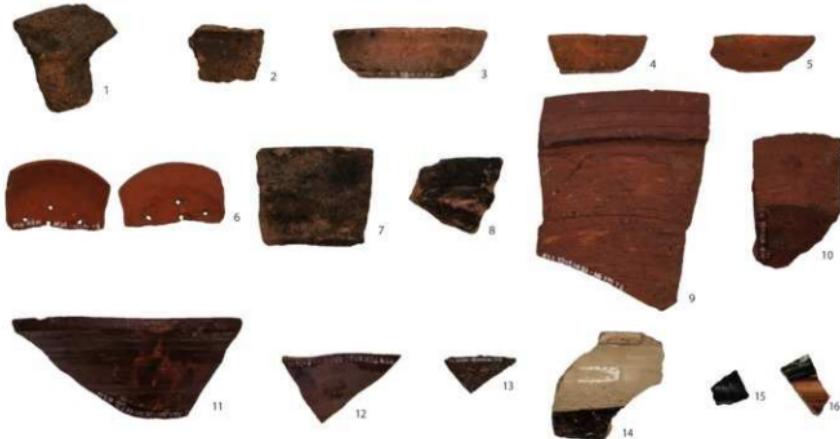


4. 館林城跡・城下町、加法師遺跡（令3地点）





### 5. 館林城跡・城下町（令3B地点）





6. 北近藤第一地点遺跡（令3地点）





# 抄 錄

ふりがな	たてばやしないいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	館林市内遺跡発掘調査報告書						
副書名	令和3年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査					卷次	—
シリーズ名	館林市埋蔵文化財発掘調査報告書					シリーズ番号	第60集
編集者名	宮田 圭祐					編集機関	館林市教育委員会
編集機関所在地	〒374-0018 群馬県館林市城町3番1号 TEL 0276-74-4111 FAX 0276-74-4113						
発行年月日	2023(令和5)年3月25日						
市町村コード	102075						
所 収 番 号	所 在 地	遺跡番号	緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
北小袋遺跡 (令3地点)	館林市近藤町字北小袋171-63	0054	36°14'18"	139°30'37"	20210614~20210617	約72m <sup>2</sup>	個人住宅
館林城跡・城下町 (令3A地点)	館林市鬼塚町218-1	0033	36°14'48"	139°33'4"	20210630~20210713	約54m <sup>2</sup>	その他建物 (建売分譲)
子ノ神1遺跡 (令3地点)	館林市赤生田町2297-1	0124	36°13'53"	139°33'21"	20210714~20210724	約77m <sup>2</sup>	その他開発 (駐車場)
館林城跡・城下町 、加法師遺跡 (令3地点)	館林市加法師町2864-1, 2866, 2867	0033 0039	36°15'1"	139°32'50"	20210729~20210812	約83m <sup>2</sup>	その他開発 (宅地造成)
館林城跡・城下町 (令3B地点)	館林市朝日町1006-1, 1006-4, 1008-1, 1008-2, 1009, 1009-2, 1010, 1014-1	0033	36°15'3"	139°32'21"	20210831~20210916	約103m <sup>2</sup>	その他建物 (建売分譲)
北近藤第一地点遺跡 (令3地点)	館林市近藤町830-11, 830-12	0053	36°13'58"	139°30'13"	20220111~20220120	約45m <sup>2</sup>	その他建物 (建売分譲)
遺跡名	種別	時代	主な構造		主な遺物	特記事項	
北小袋遺跡 (令3地点)	散布地	旧石器、縄文	—		縄文土器・石器片、土師器片、陶磁器片		
館林城跡・城下町 (令3A地点)	城館跡、散布地	縄文、古墳、中世、近世	溝1条、土坑1基、井戸1基		縄文土器片、陶磁器片、瓦		
子ノ神1遺跡 (令3地点)	散布地	平安	溝2条		土師器片、須恵器片		
館林城跡・城下町、 加法師遺跡 (令3地点)	城館跡、散布地 集落、城館跡	縄文、古墳、中世、近世 縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世	住居址8軒 (縄文3、古墳5)		縄文土器・石器片、土師器片、陶磁器片		
館林城跡・城下町 (令3B地点)	城館跡、散布地	縄文、古墳、中世、近世	溝3条、土坑6基、集石(礫石)1箇所		陶磁器片、瓦		
北近藤第一地点遺跡 (令3地点)	集落	縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世	住居址4軒(古墳3、奈良・平安1)		縄文土器片、土師器片		

---

館林市埋蔵文化財発掘調査報告書 第60集

## 館林市内遺跡発掘調査報告書

— 令和3年度各種開発に伴う埋蔵文化財調査 —

---

編集・発行 館林市教育委員会

〒374-8501 群馬県館林市城町1番1号 電話0276-72-4111

印 刷 朝日印刷工業株式会社

発行年月日 令和5年3月25日

---

